

令和元年5月24日現在

機関番号：13301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2018

課題番号：15K12301

研究課題名(和文)「時間の尺度」の開発と高校家庭科への展開

研究課題名(英文) Development of time scale and evolution for home economics education in high school

研究代表者

尾島 恭子(OJIMA, Kyoko)

金沢大学・学校教育系・教授

研究者番号：20293326

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、高校家庭科における生活時間教育に着目し、時間の長さだけでなく、どのように過ごしたかの時間の質も考慮した新たな「時間の尺度」を開発することを目的とした。そのために高校生に調査を行い、高校生の時間に対する意識を検討した。その結果、時計の進み方を基準として3～5段階の時間尺度を用いることが考えられた。また、それをを用いて教育の場に還元するために、高校家庭科で今までは展開されてこなかった「長さ」と「質」との双方を組み入れた「時間の尺度」を用いた授業内容を提案した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高校家庭科の生活時間教育において、時間の長さや質の双方を重視した考え方の提案と、その授業案への展開は、生活時間の質的な概念を含んだ授業案・教材等はほとんどない高校家庭科教諭にとって新たな手法として意義があった。同時に、生活時間管理に悩む高校生にとって、身近な尺度を用いて自分自身の生活を振り返ることのできる結果となり、生活時間管理能力の向上に寄与するものとして社会的な意義もあったと判断される。

研究成果の概要(英文)：The aim of this study is to develop a time scale for home economics education in high school. I carried out survey research. A survey on time consciousness was conducted on high school students. The questionnaire comprised five categories: 1. when the passage of time feels slower than the clock; 2. when time feels synchronized with the clock; 3. when the passage of time feels faster than the clock; 4. when the clock seems to have turned in a blink; and 5. when it feels like the clock has stopped.

We found the results of the study indicate that it is necessary to think about the quality of time as well as the length of time in high school home economics classes.

研究分野：家庭経営学

キーワード：生活時間 生活資源 高校家庭科

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19, CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

多忙化が叫ばれる中、どのライフステージにおいても「生活時間管理」が重要であることは至極当然であり、時間管理術と名のつく図書が出版されたり、時間管理表の作成が進められたり、さらには、時間管理アプリなるものも開発されるようになったりと身近なところで時間管理に関する情報を得ることができる。生活を研究対象とした家政学会・家庭科教育学会等の学界においても、生活時間に関わる研究が蓄積され、また、学校教育における家庭科教育でも生活時間に関する指導は実践されてきた。しかし、高校家庭科で扱う内容としては、家事時間や仕事時間が何時間など時間の長さについて触れているものである。翻って、密度の濃い時間を過ごすという時間の（長さだけではない）質も重要であるが、現状ではその尺度が見当たらず、家庭科で学ぶ生活時間について、その「質」については展開されていない。

### 2. 研究の目的

生活時間管理の重要性は論ずるまでもないが、今後社会人として生活する前段階の時期にある高校生が、生活時間について学び、自己管理能力として自らの生活時間を管理する力をつけることは特に重要である。そのようななか、本研究では時間管理をより有効で現実的なものとするために、時間の長さだけでなく、どのように過ごしたかの時間の質も考慮した、新たな「時間の尺度」を開発することを目的とした。さらにそれを教育の場に還元するために、高校家庭科で今までは展開されてこなかった「長さ」と「質」との双方を組み入れた「時間の尺度」を用いた授業内容を提案するものである。

### 3. 研究の方法

本研究では、以下の手順で研究を進めた

- (1) 高校生における生活時間学習の現状と課題を確認した。
- (2) 高校生の生活時間意識を調査し、その結果を分析した。  
調査は高校家庭科に展開できる時間の「質」の尺度を検討するものである。
- (3) 高校家庭科における生活時間学習の新たな授業内容の提案をした。  
高校生対象に実施した調査の結果を用い、質と長さの双方の時間の尺度を用いた高校家庭科授業での実施内容を提案するものである。

### 4. 研究成果

本研究の成果は下記の通りである。

- (1) 高校生における生活時間学習の現状と課題を確認  
高校家庭科の教科書分析の結果などから、高校家庭科において時間も生活資源の一つとして位置付ける内容となってきたことが確認されたが、一方で高校生への調査からは高校生は生活資源としての時間を有効に使いたいという意識も多くみられることも確認された。高校生における生活時間学習の現状と課題を確認した結果、同じ時間をどのような中身で過ごすのかといった時間の「密度」から考えることも必要であることが導き出された。

- (2) 高校生の生活時間意識を分析した

時間の尺度を検討するために、高校生に対し時間意識調査を実施した。その調査の調査対象・時期と内容および結果については、下記のとおりである。

#### 調査対象・時期

調査対象は、石川県内の高校に通う生徒である。本調査は数の把握が主目的ではなく、高校生の意識の傾向を確認するための調査であり、高校教諭を通じて生徒に配付・回収を依頼し61名分を回収した。調査時期は2018年5月であった。

#### 調査内容

時間の密度を検討する手段として、本研究では体感時間により生徒の時間意識を検討することとした。具体的には時間の進み方を時計と比較して、1.時間がたつのが時計よりも遅く感じる時、2.時間がたつのが時計と同じように感じる時、3.時間がたつのが時計よりも早く感じる時、4.時間を忘れてしまう時、5.時間の感覚がなくなるときの、5段階にわけて「思いつくものをあげてください」として自由記述で回答を求めた。

#### 調査結果

それぞれの段階における回答結果を表1に示す。

表は、それぞれの段階で出現頻度の多かったものである。なお、分析に際し、原則的には単語での区切りであり、例えば「楽しくない」は楽しい(形容詞)+ない(助動詞)の2語にわかれる。そのような場合は単純に分析すると表1では「楽しい」という単語が上位となってしまうが、確認したところ、すべて「楽しくない」と用いられており、誤解を避けるために表中には「楽しくない」で示してある(「面白くない」も同様)。

各設問での空欄(無回答)は、1は0人、2は6人、3は0人、4は1人、5は4人であった。5は挙げづらいかと思ったが、それ以上に2の無回答が多かった。

表1 回答結果(頻出順)

1.時間がたつのが、時計よりも遅く感じるとき		2.時間がたつのが、時計と同じように感じるとき		3.時間がたつのが、時計よりも早く感じるとき		4.時間を忘れてしまうとき		5.時間の感覚がなくなるとき	
キーワード	出現頻度	キーワード	出現頻度	キーワード	出現頻度	キーワード	出現頻度	キーワード	出現頻度
授業	48	授業	10	する	19	する	24	寝る	12
つまらない	11	する	10	遊ぶ	15	ゲーム	11	する	11
する	7	部活	7	友達	11	スマホ	9	いる	7
楽しくない	6	食べる	7	ゲーム	10	遊ぶ	7	見る	6
受ける	5	勉強	7	寝る	7	友達	6	緊張	5
部活	4	ご飯	4	見る	7	寝る	6	ポー	3
勉強	3	見る	3	部活	6	さわる	5	ショック	3

また、その結果について、段階ごとに検討した。その際、図1にあるような関連度に応じたマッピングも用いて検討した。

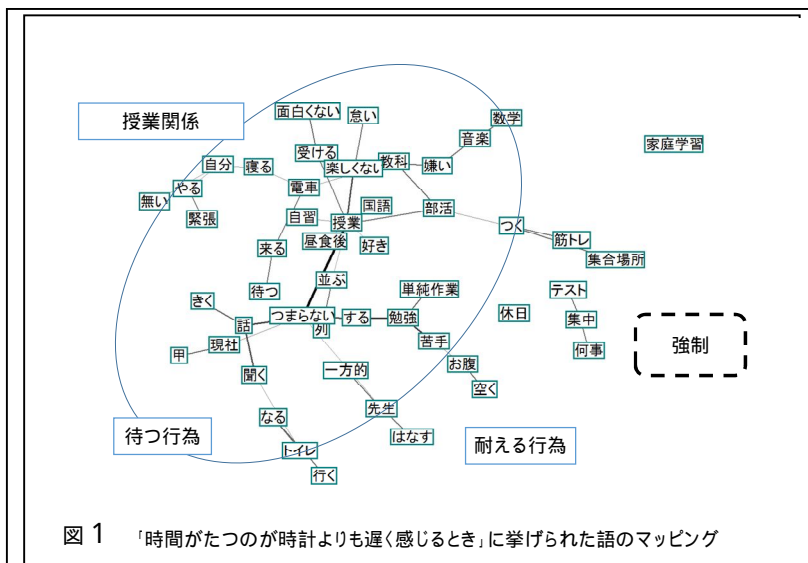


図1 「時間がたつのが時計よりも遅く感じるとき」に挙げられた語のマッピング

分類した5段階すべてにおいて頻出頻度の高かった語を関連度に応じたマッピングを用いて検討した結果をまとめたものが下記である。

・「時間がたつのが時計よりも遅く感じる」ときとして、8割の生徒が授業の時間をしており、形容詞に「つまらない」「楽しくない」がつけられている。また、待つ、耐えるといった語句とあわせて、「強制」のキーワードが連想される。

・「時計が進むのと同じ感覚で時間が過ぎていく」ときとして「授業」が挙げられているが、そこにはプラスやマイナスの評価は入っていない、淡々と過ぎる「日常」としての行為が挙げられる。

・「時計よりも早く時間が進む」ときとして読書、ゲーム、部活、友達と遊ぶなど自由選択行為や、お風呂に入るなどのリラックスできる時間など、「任意」で行うものが挙げられる。

・「時間を忘れるとき」は上記同様、ゲームをするなどの自由選択行為を挙げる者が多いが任意で行うものと同時に若干「非日常」の場面も入っている。

・「時間の感覚がなくなる」ときとしては、「非日常」の場面を挙げる者が多かった。

### (3) 高校家庭科における生活時間学習の新たな授業内容の提案

調査の結果も踏まえて本研究としては高校家庭科における生活時間学習において、下記の内容を授業に取り入れることを提案した。

本調査で用いた5段階、もしくは「時間のたつのが時計よりも遅く感じるとき」と「時間のたつのが時計よりも早く感じるとき」の2段階を示し、生徒それぞれに思いつくものを挙げさせる。その後、出てきた回答をもとに、同じ行為(たとえば部活や授業)でも捉え方に差があること、すなわち同じ行為として過ごした1時間でも、人によって意味が異なってくることを自覚させたうえで、同じ行為でも捉え方に差があるのは何故か、また、同じ1時間をどのように過ごすこと望まれるのかも考えさせる。

一日のうちで「強制」「日常」「任意」「非日常」の場面に該当する行為を挙げさせる（一つの行為が複数の場面に該当することも可能）。その後、生徒自身の一日は、どのような場面が多いのかを確認させたのち、「強制」「日常」「任意」「非日常」それぞれのカテゴリーに分けられる内容と、その時間の充実度や時間のたち方との関係について考えさせる。

以上の授業内容は、生徒たちに「時間」というものを改めて考えてもらうきっかけになると同時に、生活時間を生活資源として位置づけることが可能となる。すなわち高校生の現状の課題解決にもつながると同時に、生活時間を生活資源の一つとして将来の生活設計に生かす力にもつながる授業として提案できた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

尾島恭子「高校生の生活時間」家庭科教育学会第35回北陸地区大会 2018年

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究分担者

研究分担者氏名:

ローマ字氏名:

所属研究機関名:

部局名:

職名:

研究者番号(8桁):

### (2)研究協力者

研究協力者氏名:

ローマ字氏名:

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。